

| | | | | | | |
|-------|-------|------|-----------|---|------|------|
| 指定校番号 | 28023 | 学級活動 | 児童会・生徒会活動 | ○ | 学校行事 | 別紙様式 |
|-------|-------|------|-----------|---|------|------|

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

| | | | | | |
|-----|------------|----|-------|--------|-------|
| 学校名 | 広島市立八幡東小学校 | 校長 | 河野 博一 | 生徒指導主事 | 岩谷 恵美 |
|-----|------------|----|-------|--------|-------|

取組事例名 『縦割り活動』

取組のねらい『キーワード異学年交流』

- ・ 高学年の児童がリーダーシップを発揮して、低学年の児童にやさしくいろいろなことを教える。
- ・ 低学年に児童は高学年の児童を見習い、正しい行いを学ぶ。

取組の具体的内容『キーワード高学年のリーダーシップ』

- ・ 昼休憩を延長して縦割り遊びを年間 5 回ぐらい行う。



- ・ 防犯教室を縦割り班で行い、話し合いは、6 年生が進める。

- ・ オリエンテーリング集会も縦割り班で行い、高学年の児童が低学年の児童をリードする。



取組の課題・創意工夫『キーワード高学年の練習』

- ・ 縦割り遊びの中で高学年の児童が低学年の児童に折鶴の折り方を教えるように仕組んだため、低学年にわかりやすく教えることができるよう事前に折鶴を折る練習をした。折鶴を折ることが苦手な高学年の児童も仲間に折り方を教えてもらいながら、一生懸命に取り組んでいた。



取組の成果（効果）『キーワード異学年交流による児童の成長』

- ・ 本校は面倒見のよい児童が多く、高学年の児童は低学年の児童の前ではよくがんばり、低学年の児童に優しく接することができる。こうした異学年交流を通じて、低学年の児童は、高学年の児童のように友達に優しく接するようになった。高学年の児童は、低学年のお手本になろうとがんばり、学校での問題行動が減った。
- ・ 防犯教室の話し合いは、毎年行っているのので、上手に低学年の児童に意見を言わせることのできる高学年の児童が増えてきている。
- ・ 低学年は高学年の意見を聞き、正しい行いを学ぶ。

今後の展開『キーワード感謝の会』

卒業式の前に、お別れ集会を行う。お別れ集会では縦割り班でお世話になった6年生に、全員がメッセージカードを書いて、お礼の花束として渡す。そうした取組を通じて、お互いの存在に感謝の気持ちが持てるよう取り組んでいく。

他校へのアドバイス『キーワード異学年での話し合い』

- ・防犯教室では、縦割り班で話し合いをする。6年生だけ事前学習を行い、話し合う内容を事前に理解させたことで、6年生が活躍できる場を増やすことができ、高学年としての自覚が育つ。
- ・異学年での話し合いを行うことで、いろいろな考え方を学ぶことができる。特に、低学年の児童にとっては、高学年の児童の意見を聞くことで、高学年の児童に憧れを抱くことにつながる。